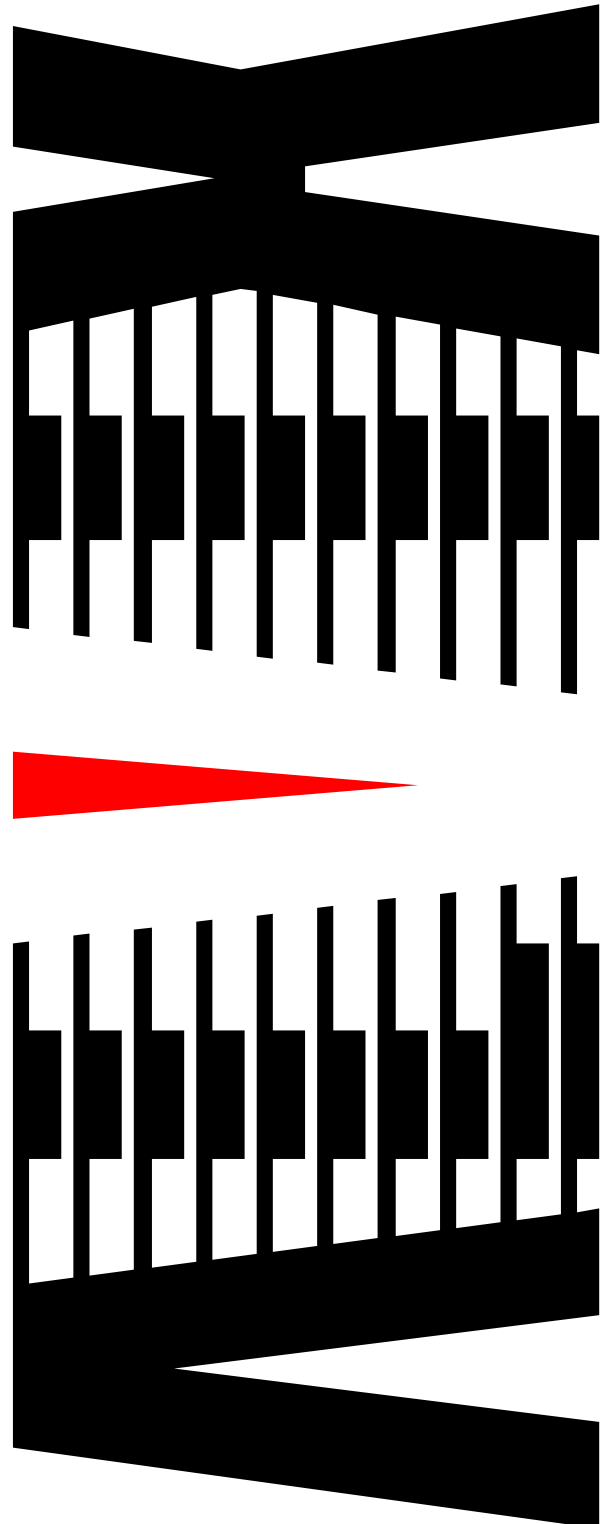


# “アルビクス” ARIB STD-B39 信号検知装置

B39-108R

取扱説明書

Ver.2.1



御使用前の**必ず**本取扱説明書をよく読んで理解して、  
安全の為の指示に従って下さい。

もし、不明点が有れば販売店か弊社におたずね下さい。

## 目 次

	ページ
御使用上の注意事項 .....	1
1. 主な機能と特徴 .....	2
2. 仕様 .....	3
3. 各部の名称と機能 .....	4
3 - 1 フロント .....	4
3 - 2 リア .....	5
4. 設置手順 .....	6
4 - 1 ラックマウント .....	6
4 - 2 メインボード交換方法 .....	6
4 - 3 電源ユニット交換方法 .....	6
5. Webブラウザによる設定 .....	7
5 - 1 ログイン .....	7
5 - 2 Trap 先 IP アドレス設定 .....	8
5 - 3 時刻調整 .....	9
5 - 4 ネットワーク設定 .....	11

## 御使用上の注意事項

必ずお守り下さい（安全にお使いいただくために）

### 警告

- ◇ 内部に液体をこぼしたり、燃え易い物や金属類を落としたり、してはいけません。（火災や感電、故障の原因となります。）
- ◇ 発煙、異常音、臭気などに気が付いたときは、すぐに電源コードを抜いて販売店に御連絡下さい。

### 注意

- ◇ 電源プラグの接続が不完全なまま使用しない。  
（感電やショート、火災の原因となります。）
- ◇ 電源コードを引っ張ったり、重いものをのせたりしない。  
（電源コードが損傷し、火災や感電の原因となります。）
- ◇ 電源コードを引っ張ってコンセントから抜かない。  
（感電やショート、火災の原因となります。）
- ◇ 仕様にて規定された電源電圧以外では使用しない。  
（火災や感電の原因となります。）

### お願い

- ◇ 風通しの悪い所に置いたり、布などで通風孔を塞いだりしないで下さい。  
（故障の原因となります。）
- ◇ 次の様な所には置かないで下さい。  
湿気が多い所、油煙や湯気の当たる所、直射日光の当たる所、熱器具に近い所、埃の多い所、強い磁気のある所、極端に寒い所、極端に暑い所、激しい振動のある所、安定しない台の上、傾いた所  
（故障の原因となります。）

## 1. 主な機能と特徴

---

- ◇HD-SDI 信号の放送局制御信号 (ARIB STD-B39)、または SCTE104 を検知する装置です。
- ◇検知は系統ごとに指定できます。
- ◇放送局制御信号は、任意のワード番号、ビット番号の制御データを検知し、変化の状態<sup>※1</sup>を SNMP で外部通知します。
- ◇SCTE104 は、splice\_request\_data() を検知し、変化の状態<sup>※1</sup>を SNMP で外部通知します。
- ◇筐体は 2U サイズです。
- ◇棚板方式で、最大 8 系統を搭載することが可能です。
- ◇各系統は、個別に動作します。各入力が同期している必要はありません。
- ◇電源は二重化されています。

※1 検出できる変化の最大値は 15 回/秒です。

## 2. 仕様

---

- ◆入力信号
  - 信号数 : 1 系統
  - 信号形式 : HD-SDI SMPTE292M 1080i [59.94Hz]
  - コネクタ : BNC コネクタ
  
- ◆バッファスルー出力信号
  - 信号数 : 1 系統
  - コネクタ : BNC コネクタ
  
- ◆ARIB STD-B39
  - 検知指定 : 検知する制御データは、ARIB STD-B39 のワード番号、ビット番号で任意に設定します。指定は系統ごとに 16 箇所まで設定できます。
  
- ◆SCTE104
  - : ①検知した SCTE104 データを、そのまま外部通知します。  
②splice\_request\_data( )、alive\_request\_data( )については、検知した内容を解析し、以下の値を外部通知します。  
splice\_request\_data( )
    - : message\_size, message\_number, opID,  
splice\_insert\_type, splice\_event\_id,  
program\_id, pre\_roll\_time, break\_duration,  
auto\_return\_flagalive\_request\_data( )
    - : message\_size, message\_number, opID
  
- ◆外部通信
  - 通信仕様 : 100BASE-TX/10BASE-T 対応 LAN インターフェース
  - プロトコル : HTTP (本体設定)  
SNMP (検知通知)
  - コネクタ : RJ-45 モジュラ
  
- ◆電源
  - 電源電圧 : 100V AC ±5%
  - 消費電力 : 約69W (8ch搭載時)
  
- ◆使用温度範囲 : 5℃ ~ 40℃ (結露なきこと)
  
- ◆外形寸法 : H88 × W430 × D275 (mm)  
(突起含まず)
  
- ◆その他
  - 電源二重化 : ホットスワップ可能
  - ボード挿抜 : ホットスワップ可能 (コントロールボードを除く)
  - ラックマウント : 専用取付金具により、EIA 2U/JIS 2J として取り付け可能です。

### 3. 各部の名称と機能

#### 3-1 フロント

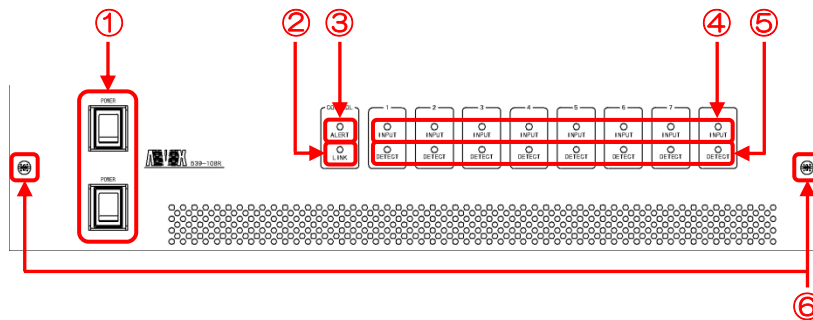


図 3.1.1 フロント外観図

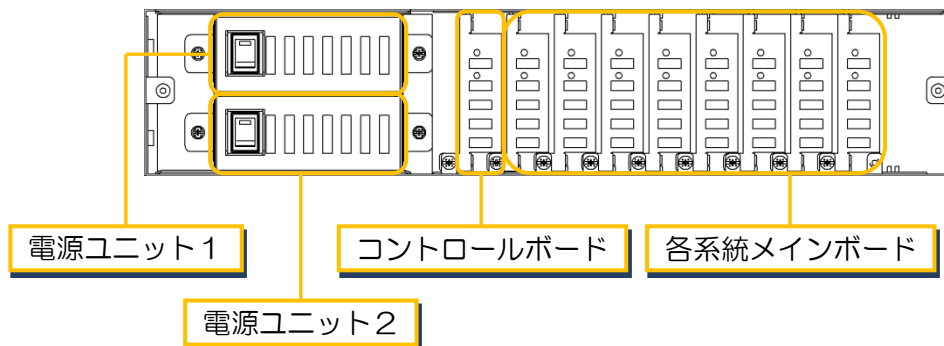


図 3.1.2 フロント開口時

- ①電源スイッチ  
本機器の電源 ON/OFF を行います。  
通常は、上下のスイッチを両方とも ON にして使用して下さい。
- ②LINK LED  
LAN 通信時に点灯します。
- ③ALERT LED  
電源ユニット 1、2 いずれかの電源電圧低下時、およびファン異常時、および入力信号断時のいずれかの異常が検知された時、赤に点灯します。
- ④INPUT LED  
入力状態を表します。  
赤点滅：入力なし  
緑点灯：HD 入力
- ⑤DETECT LED  
ARIB STD-B39 の指定したビットの変化や、SCTE104 を検知した時に点灯し、1 秒後に消灯します。
- ⑥フロント着脱用ネジ  
フロントを開口するには、ネジを緩めてフロントの着脱を行います。

## 3-2 リア

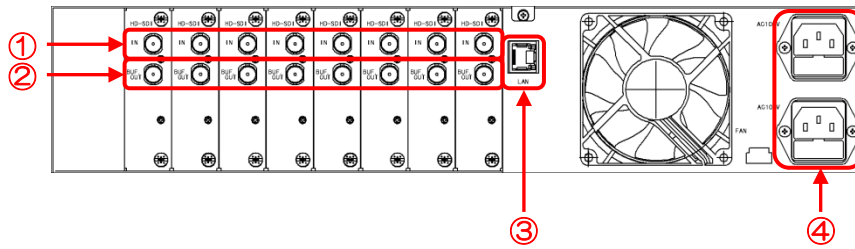


図 3.2 リア外観図

- ①信号入力  
ARIB STD-B39 や SCTE104 を検知する信号を入力します。
- ②バッファスルー出力  
入力された各系統の信号がバッファを介して出力されます。  
本機電源 OFF 時にはリレースルーされた入力信号が出力されます。
- ③LAN  
通信制御用の LAN インターフェースコネクタです。
- ④AC 入力  
本機の電源入力（3P インレット）です。  
電源コードは上下とも接続してください。

## 4. 設置手順

### 4-1 ラックマウント

◇専用取り付け金具を使用することで、EIA2U/JIS 2Jとして取り付けることが可能です。

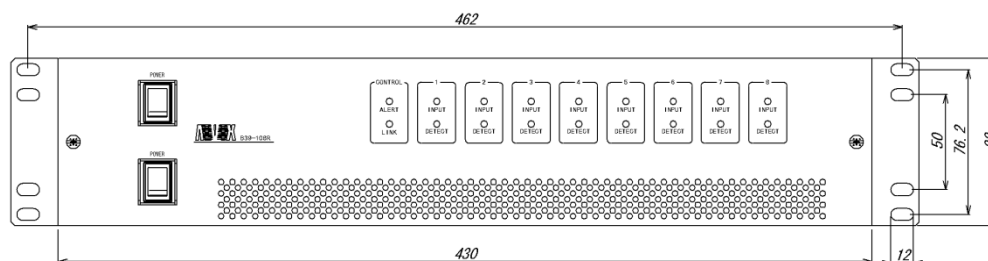


図 4.1 ラックマウント用金具

### 4-2 メインボード交換方法

◇各系統のメインボードはホットスワップ可能になっています。

※ボード挿抜時には、メカニカルリレーが動作するため、バッファスルー出力が一瞬乱れます。

※ホットスワップを行う際には、隣接基板との接触に注意してください。

1. フロントパネルを取り外します。
2. 交換する基板の固定用ネジ(基板左下側の固定ネジ)を緩め、基板を引き抜きます。
3. 新しい基板を本体に挿入します。  
※挿入時に、基板が上下のレールにきちんと挟まっていることを確認してください。
4. 基板を奥まで押し込み、固定用ネジを締めます。
5. フロントパネルを戻します。

### 4-3 電源ユニット交換方法

◇電源ユニットはホットスワップ可能になっています。(片側ずつの交換となります)

1. フロントパネルを取り外します。
2. 交換する側の電源スイッチをOFFします。
3. 交換する電源ユニットの固定用ネジを緩め、電源ユニットを引き抜きます。
4. 新しい電源ユニットを本体に挿入し、固定用ネジを締めます。
5. フロントパネルを戻し、電源スイッチをONします。

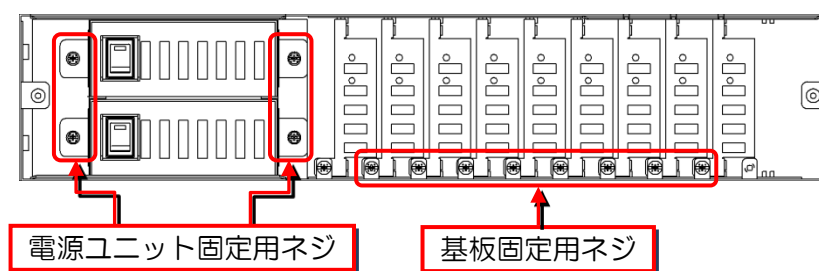


図 4.3 固定用ネジ



## 5. Webブラウザによる設定

◇本装置はWebブラウザを使用し、インストール設定、時刻設定、ネットワーク設定等を行うことができます。

### 5-1 ログイン

◇装置の設定画面を開きます。

- (1) インターネットエクスプローラーを起動し、アクセスしたい機器のIPアドレスを入力します。

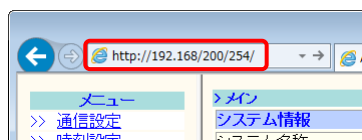


図 5.1.1 URL 入力

- (2) メイン画面が表示されます。

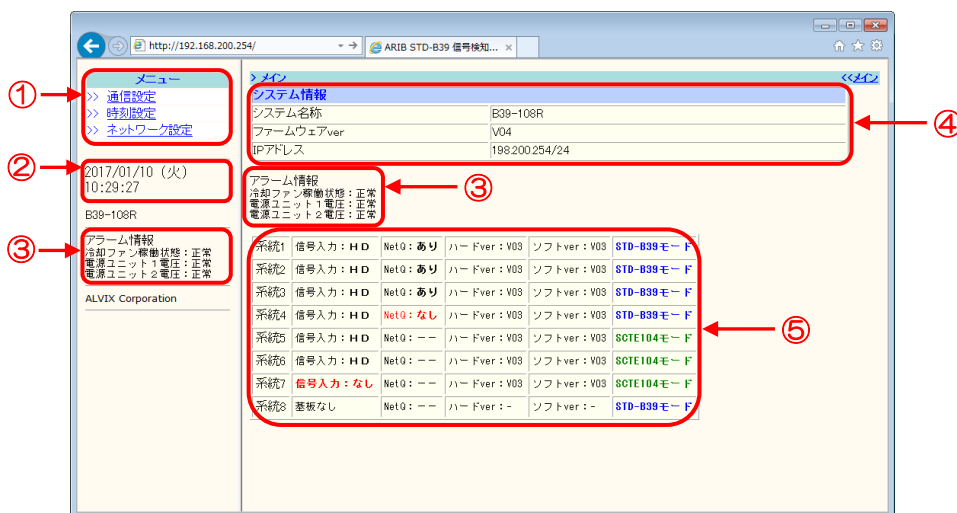


図 5.1.2 メイン画面

- ① メニュー
  - ◆通信設定 . . . Trap 先 IP アドレスの設定を行います。
  - ◆時刻設定 . . . 機器の時刻設定を行います。
  - ◆ネットワーク設定 . . . 機器の IP アドレスの設定を行います。
- ② 時刻表示
  - ◆メニュー下の時刻はアクセス中の機器の時刻です。
  - ◆時刻は5秒ごとに装置と同期を行っています。
- ③ アラーム情報
  - ◆アラーム情報を表示します。
  - ◆5秒ごとに装置と同期を行っています。
- ④ システム情報
  - ◆機器のシステム名称、ファームウェアバージョン、IP アドレスを表示します。
- ⑤ 各系統状態情報
  - ◆各系統の状態を示します。

## 5 - 2 Trap 先 IP アドレス設定

◇Trap 通知先を設定することができます。

- (1) メニューより「通信設定」をクリックしてください。

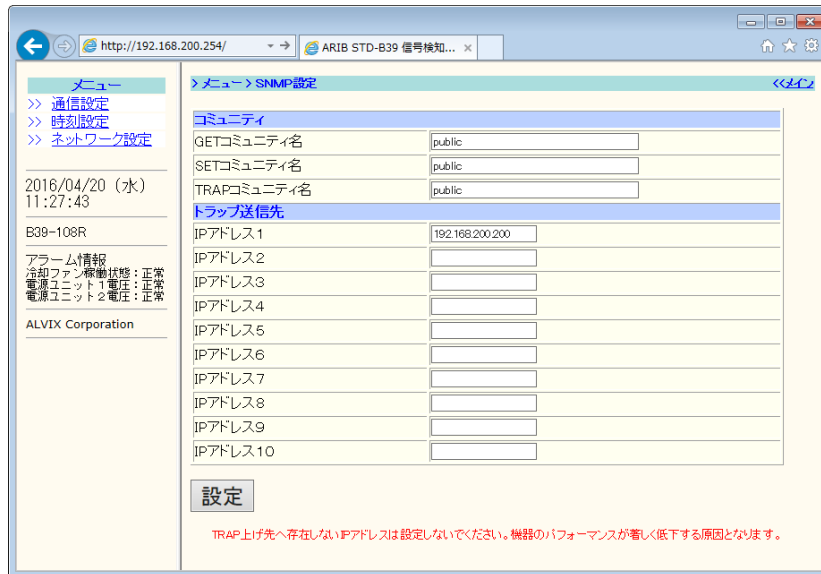


図 5.2 通信設定

- (2) Trap 送信先 IP アドレスを設定します。  
Trap 先 IP アドレスは最大 10 箇所まで指定可能です。  
Trap 先 IP アドレスは、ネットワーク上に存在しないアドレスは設定しないでください。機器の通信パフォーマンスが著しく低下する原因となります。
- (3) 設定の変更が終わったら、**設定** ボタンをクリックしてください。

## 5-3 時刻調整

◇機器の時刻を設定できます。

(1) メニューより「時刻設定」をクリックしてください。

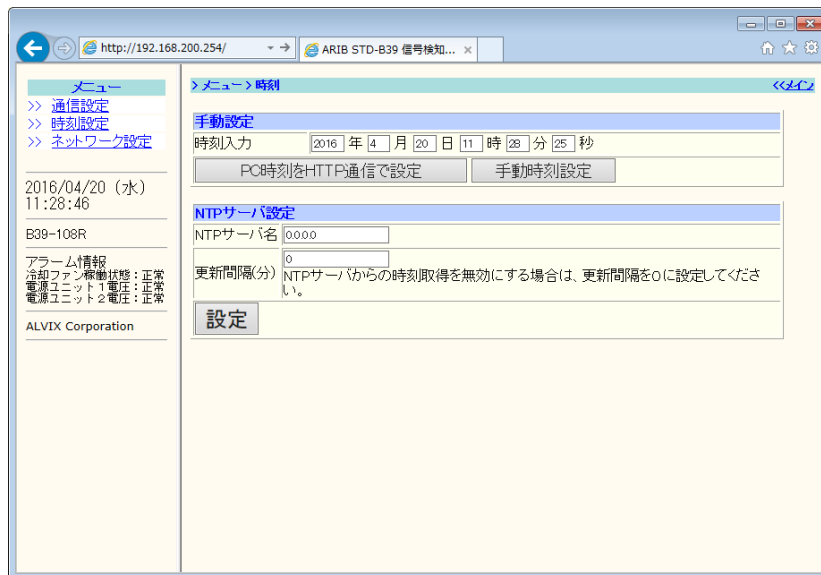


図 5.3.1 時刻設定

(1) 時刻の設定方法を選択してください。

① PC 時刻を HTTP 通信で設定

・・・ 接続しているパソコンの時刻を設定します。

をクリックすると、時刻を設定します。

② 手動時刻設定

・・・ 入力された時刻を設定します。

任意の時刻を入力後、 をクリックしてください。

(2) NTP サーバ設定を行うことで、NTP サーバとの時刻同期を行うことができます。

① NTP サーバ名

◆NTP サーバの IP アドレスを入力してください。

◆「0.0.0.0」を設定した場合、時刻同期は無効となります。

② 更新間隔

◆NTP サーバへアクセスする間隔を指定します。

◆設定範囲は0～9999（分）です。

◆0（分）を設定した場合、時刻同期は無効となります。

③ 設定の変更が終わったら、 ボタンをクリックしてください。確認メッセージが表示され、設定が有効になります。

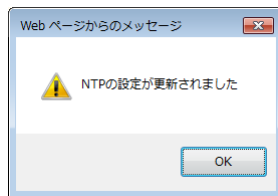


図 5.3.2 確認メッセージ (NTP 設定)

## 5-4 ネットワーク設定

◇機器のIPアドレス、ゲートウェイ等の変更ができます。

- (1) メニューより「ネットワーク設定」をクリックしてください。

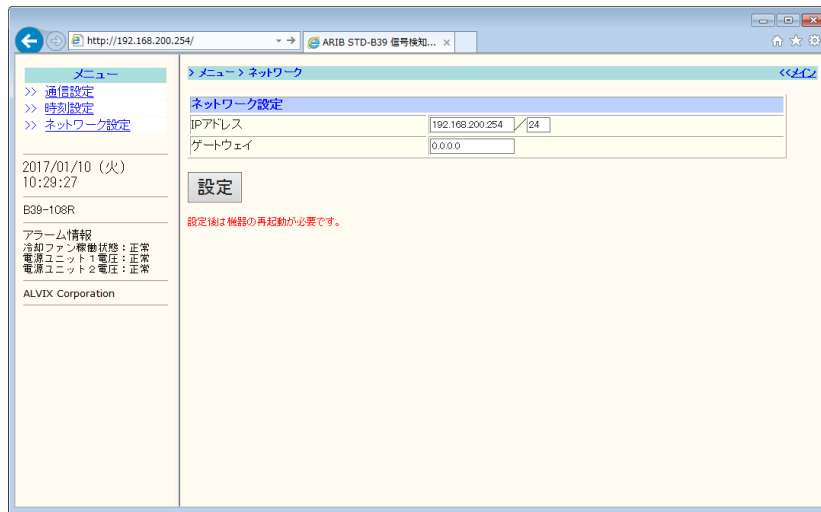


図 5.4.1 ネットワーク設定

- (2) 変更したいIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。
- (3) 設定の変更が終わったら、**設定** ボタンをクリックしてください。確認メッセージが表示されます。

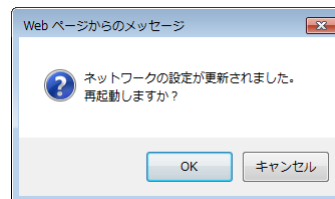


図 5.4.2 確認メッセージ（ネットワーク設定）

- (4) **OK** ボタンをクリックして、機器を再起動してください。確認メッセージが表示されます。

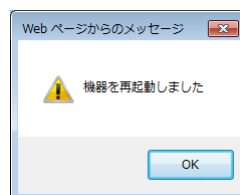


図 5.4.3 確認メッセージ（再起動）

- (5) ブラウザに新しいIPアドレスを入力し、再ログインしてください。

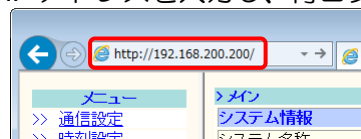


図 5.4.4 URL 入力

## お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。

なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

TEL  
担 当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

---

無断転載禁止

アルビクス株式会社

〒959-0214

新潟県燕市吉田法花堂1974-1

TEL：0256-93-5035

FAX：0256-93-5038